

武蔵野三鷹ケーブルテレビ株式会社
平成 19 年度 第五回放送番組審議会 議事録

開催日時：平成 19 年 7 月 24 日（火）17：00～18：30
開催場所：セコム SC センター 3 階第 1 会議室

出席委員：見城武秀 中山廣明 岡崎昌史（久保律子代理）
牧野洋子 川井信良 小森岳史 城所吉次

欠 席：大久保康夫

武蔵野三鷹ケーブルテレビ株式会社：安西潔 岩渕豊治 島野浩二 秋元政三
ジャパンケーブルネット株式会社：安齊洋一

〔議事〕

1 【開会】

司会 島野顧問

2 【社長挨拶】

■安西社長が、今回の議題について、デジタル化、新サービス開始を踏まえ、今後のコミュニティチャンネルの方向性を決めるためにも、忌憚のないご意見をお願いしたいと述べると共に、ジャパンケーブルネットの大株主がKDD Iに変更となった旨説明。

3 【各委員挨拶】

■ 6月にMMの役員に就任した、岩渕取締役と秋元監査役が挨拶した後、各委員挨拶

4 【議題 1ー放送基準の改定について】

■ JCN安齊氏より、放送基準が改正になった経緯を説明。

主な理由は、ケーブルテレビ（以下CATVと略）連盟が、CATVにおける通販番組の増加に伴う、誇大広告などの自主規制と、政治報道の公平性の厳守、そしてアニメーション番組を原因とする、健康被害の問題などに対応するために定めたもの。基準は、日本民間放送連盟の放送基準を参考にしている。

◆ 改定された基準について各委員の意見

◎ 非常に細かく規定されているが、ここまでする必要があるのか？民放ならこれでもいいかもしれないが、CATVにはCATVの実情にあった放送基準があるべき

◎ 条文の文言も統一感がなく、第三者的な言い回しが多い。自らを律する文体が望ましい。

◎ MMはNPO法人むさしのみたか市民テレビ局が制作した番組をコミュニティチャンネルで放送しているが、規制をかけすぎると、市民テレビ局のように、市民の主義主張を、番組を通じて発信する事（パブリックアクセス）がやりにくくなるのではないか？

◎ 規定を定めることは大事だが、もっと大切なのは、制作放送を行う際の、実際の運用をしっかりしてほしい。

◎ 広告放送に関連し、個人情報保護の規定があるが、これはここで述べる必要があるのか？放送基準とは別だと思う

以上のような意見が出され、民放連の規定のコピーではなく、高齢者などCATVの視聴者層への配慮や、パブリックアクセスなど、CATVの実情に即した内容にすることを、JCNを通じ、日本ケーブルテレビ連盟に働きかけてもらうこととした。

【議題2ーコミュニティチャンネルのデジタル化について】

■ 島野顧問より、8月から本放送開始のコミュニティチャンネルのデジタル放送(以下デジタルコミ c h と略)

について、導入の経緯を説明。

NHK、民放などのデジタル放送実施によって、MMも有料契約者数の7割以上がデジタル放送ユーザー。デジタルとアナログの切替は以外と手間がかかるため、アナログ放送のコミュニティチャンネル離れが進んでいる。これに歯止めをかけることが、実施の大きな理由。

◆ JCN安齊氏から、デジタルコミ c h の特徴でもあるデータ放送について説明。

◆ MM安西社長より、デジタル化に合わせて集合住宅を中心に今後、視聴可能世帯数を増やす事と、デジタルコミ c h は、コンテンツの充実や双方向性をどう生かすかが今後の課題であることが説明される。

◆ 各委員の意見

◎ MMのデジタルコースに加入したが、あまりに操作が複雑。たくさんチャンネルがある中で、限られたチャンネルで満足するユーザーにとっては、もっと操作を簡単にしたほうが好まれる。またデジタル化によって、お天気チャンネルがなくなるなど、制約も出ているのはなんとかしてほしい。

◎ デジタル化であまりにチャンネルが多くなり、かえって視聴者は、多チャンネルを好まなくなる。ゆえに、地域放送であるコミ c h が大事になるので、デジタル化を契機に内容の充実を期待したい。

◎ 団塊の世代は、定年により、地域に戻ってくる。そうした人達が、地域を知る上で、コミ c h とそのデータ放送は、非常に便利なツール。吉祥寺の店舗の営業時間案内や、地域の天気、道路情報などをもっと放送してはどうか？

◎ 【島野】 パソコンを使う必要もなく、作り手も映像を作りこむ必要がない、データ放送は、(コンテンツが充実すれば) 手軽で魅力的なコンテンツになるだろう。

【議題 3ー今後の新サービス】

今年12月にスタートする、VOD (ビデオ・オン・デマンド) について、安西社長より紹介。合わせて、7月よりスタートした新サービス、HDDレコーダー付きSTB「録りま専科」についてもPRがあった。

■各委員からの意見は特になし。

【議題 4ーその他】

川井委員（むさしのみたか市民テレビ局代表）より、市民テレビ局の近況について、報告があった。

主旨としては、昨年4月にMMのコミc hで放送された「わがまちジャーナル」の内容をめぐる問題を受け、市民テレビ局の有志が、昨年12月から今年3月まで、市民テレビの制作体制の構築と運営のあり方について、検討を重ねた。（各委員に報告書配布）

この結果、もう一度、市民による市民のための番組作りという原点に立ち返って、良い番組を作ってゆこうという決意を確認し、今後、新しい番組を展開してゆくことになった。

また、4月には、三鷹市長選挙立候補予定者の公開討論会や、市議会議員選挙の3分間スピーチなど、市民テレビならではの番組を制作し、投票率アップにもつながった。今回のような、良い事例を活かしながら、今後も地域の様々な団体と連携して、番組の質を向上してゆきたい。

以上をもって、平成19年度、第5回番組審議委員会は終了した。